文京学院大学 News Release

共に育つ、わくわく悩む。

報道関係者各位

2023 年 12 月 11 日

オピニオンレター Vol.34を発行

作業療法士が教える発達障害との向き合い方
～子どもの発達を促す子育てのヒント～

文京学院大学（学長：福井勉）は、発達障害領域の作業療法と、摂食・嚥下リハビリテーションが専門の保健医療技術学部 神作一実学部長・教授が提言した、オピニオンレターVol.34「作業療法士が教える発達障害との向き合い方～子どもの発達を促す子育てのヒント～」を発行したことをお知らせいたします。

オピニオンレター概要

本学では、教員陣の最先端の研究から社会に還元すべき情報を「オピニオンレター」として発行しています。この度発行するVol.34では、作業療法士の立場から考える発達障害との向き合い方について紹介します。

作業療法士は、医療機関、介護老人保健施設、発達支援センターなどで活躍する、近年ますます社会的ニーズが高くなっている職種です。しかしながら日本では、まだ職業認知が低く、若年層の進路検討の俎上に載らないことが、なり手の少なさにつながっています。

そこで本レターでは、作業療法士の魅力について紹介するとともに、発達障害との向き合い方や、作業療法士の視点から考える子育てについて解説します。

○オピニオンレター
https://www.bgu.ac.jp/about/activity/opinion_letter/

文京学院大学

<発行日 2023年12月11日>
Vol.34

文京学院大学　オピニオンレター

作業療法士が教える発達障害との向き合い方
～子どもの発達を促す子育てのヒント～

＜提言者＞ 神作一実（文京学院大学 保健医療技術学部 学部長・教授）

専門は、発達障害領域の作業療法 摂食・嚥下リハビリテーション。研究テーマは自食時の捕食機能に関与している口唇および上肢機能の解明。
日本作業療法士協会・埼玉県作業療法士会・摂食・嚥下リハビリテーション学会（評議員）・小児保健学会・障害者歯科学会・昭和歯学会に所属。主な著書に『臨床作業療法NOVA19巻2号 摂食嚥下障害の作業療法 評価ガイド』（分担執筆、2022年）、『小児リハビリテーション 安全で楽しくおいしい食事』（分担執筆、2021年）、『作業療法学ゴールドマスターテキスト 改訂第3版 発達障害作業療法学』（分担執筆、2021年）

◆はじめに

2022年3月時点で、日本には10万人超の作業療法士が活躍しています。*1 資格を得るには国家試験に合格する必要があり、近年の合格率は80%台で推移しています。医療機関、介護老人保健施設、発達支援センターなど活躍の場は多く、社会のニーズが非常に高い職種です。

◆海外では人気も認知度も高い。一方、日本では……

2013年に発表された『雇用の未来』（オックスフォード プレイ&オズボーン）によると、作業療法士は「AIが進化してもなくならない職業」6位にランクインしています（702職種中）。また、アメリカやカナダでも軒並み人気職業の上位に入っています。なお、アメリカでは発達障害を持つ子どもには、個別教育プログラムが立てられ、義務教育期間（3歳から高校在籍可能な21歳まで）にわたって、作業療法を受けられるシステムになっています。そのため、作業療法士は「良い仕事だね」と言ってもらえるような、誰もが知る身近な職業になっています。

翻って日本では、職業認知の低さが顕著であり、若年層の進路検討の俎上に載らないことが、なり手の少なさにつながっています。アメリカのような学校現場への積極的な配置、協会を挙げてのPR活動の実施、社会的地位の向上など、様々な取り組みを通して作業療法士にスポットを当て、認知度を上げていくことが必要と感じています。

◆作業療法士の仕事

さて、日本作業療法士協会は作業療法について「人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。」と定義しています。*2私はこれを、「楽しいことをしていたら知らないうちにできるようになること」と解釈しています。例えば、友人からテニスに誘われたとき、心肺機能や筋力の強化を目的に応じる人はいないと思います。むしろ、純粋に友人とテニスを楽しもうと考えているはずです。心肺機能や筋力はその結果、強化されていくのであり、つまり楽しいことをしていたら自ずと良い効果が生まれる、ということです。また、プレイ中は息が上がって苦しかったり、ミスをすれば悔しかったりもしますが、そもそもテニスは楽しくて行っているので、これらは辛い経験ではなく、楽しい経験になります。

作業療法は、これを治療に応用したものといえます。楽しいことは熱中できます。できるようになったことは治療効果になります。私たちは対象者のやりたいことを通して障害を改善すること、障害を受けてないところを使いながら可動率を上げることに、サイエンスを使いながら取り組んでいます。

この作業療法ですが、大きく四つの領域があります。今回のテーマである発達期領域は、自閉症、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）のほか、知的障害や筋ジストロフィーなどが対象です。

◆発達障害と感覚統合機能の関係

発達障害は、感覚統合機能と深い関係があります。「感覚統合機能」とは、首がすわってお座りができるようになり、歩き始めた次はジャンプができるといった、子どもの発達プロセスで培われていくものを指します。指先の機能や食べる機能の発達もあります。これらの感覚をきちんと受け取り、組み合わせ、体にフィードバックするもしくは周りの環境をキャッチできるようにするための機能となります。

自閉スペクトラム症の場合、感覚過敏だけでなく必要な情報が取れない感覚調整障害も起きています。ADHDも同じく、感覚調整に問題があります。そして、LDは眼球運動のコントロールが不十分で、視覚で空間位置関係をうまく捉えられないことがあります。また、新しいことを行うとき、どのような動きをするのかを脳が考え実行することを「運動企画」といいますが、この機能が十分働かないために、体の使い方が不器用になることがあります。こうした子どもたちは、感覚情報処理の問題を併せ持つと考えられるため、感覚機能にアプローチすることが効果的とされています。

なお、前述の感覚調整障害は感覚統合機能がうまく発達しないことで起こります。触覚系のトラブルであれば雨を痛いと感じ、聴覚系なら緊急車両のサイレン音に激しく反応し、前庭系なら揺れを怖いと感じてエレベーターに乗れなくなるなど、生活の色々な場面で弊害が出てきます。

◆作業療法アプローチの症例紹介

発達障害に対する作業療法のアプローチですが、まずは感覚機能の発達具合、トラブルの箇所、感覚機能障害の状態を観察し、評価します。その後、感覚統合機能の発達を促すための治療プログラムを作成し、実施します。

実際の事例を紹介しましょう。

まず母親の主訴は偏食でしたが、お子さんを観察していると、工作のりに触れるのが嫌い、水遊びが嫌い、プランコは好きなものの姿勢を保てない。けれども、ハンモックのように体がすっぽり包まれる遊具なら30分以上乗っていられる。お友だちとは遊ばない。母親の膝には

提言者プロフィール

保健医療技術学部 学部長・教授 神作一実

専門は、発達障害領域の作業療法 摂食･嚥下リハビリテーション。研究テーマは自食時の捕食機能に関与している口唇および上肢機能の解明。
日本作業療法士協会･埼玉県作業療法士会･摂食･嚥下リハビリテーション学会（評議員）･小児保健学会･障害者歯科学会･昭和歯学会に所属。主な著書に『臨床作業療法 NOVA19 巻 2 号 摂食嚥下障害の作業療法　評価ガイド』（分担執筆、2022 年）、『小児リハビリテーション　安全で楽しくおいしい食事』（分担執筆、2021 年）、『作業療法学ゴールドマスターテキスト　改訂第 3 版 発達障害作業療法学』（分担執筆、2021 年）